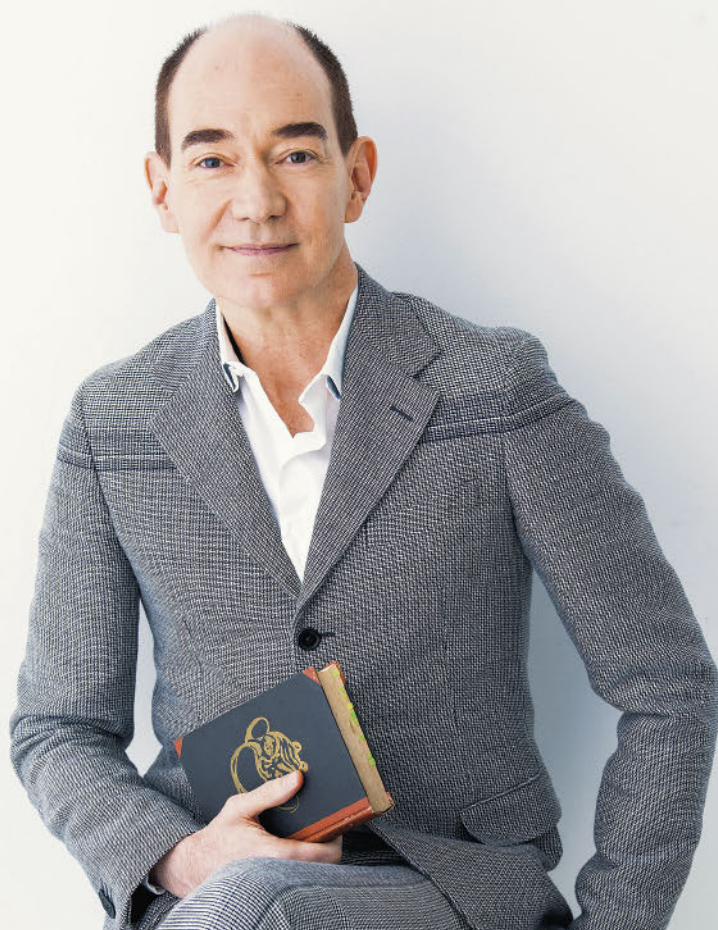


すずかけ

すみだ女性センター

すみだ女性センターは、開館30周年を迎えました。

- 2 巻頭インタビュー
- 4 **特集**
日本のジェンダー
ギャップを考える
もっと女性の広がる未来へ
- 8 になりたい自分、になりたい未来
すみだの
「お仕事探訪」
- 9 今日の一文字
- 10 すずかけ
インフォメーション
- 12 こんにちは
すみださん



巻頭インタビュー
日本文学研究者
ロバート キャンベル さん

こんにちは すみださん

スミダSGEP
戦後75年を記録する会会長
多田井 利房 さん

表紙イラストは、
すみだ女性センターの
愛称である
「すずかけ」の実です。



日本文学研究者

ロバート キャンベルさん

Robert Campbell

Profile

アメリカ合衆国出身の日本文学研究者。東京大学名誉教授。性的マイノリティや多様性について、LGBT当事者の一人としてブログや各種メディア等で発言・発信し、反響を呼んでいる。2021年4月よりYouTubeにて「キャンベルの四の五のYOUチャンネル」を配信。



ご出身について教えてください。

ニューヨークのブロンクス地区という、移民のまちで育ちました。さまざまな民族や宗教がひしめき合っており、私が住んでいたアパートも踊り場ごとに異なる言語が飛び交っていました。ただし、各コミュニティ相互の関わりはほとんどなく、学

校、病院、食料品店等、生活の場は全て自分の帰属母体に紐づいていました。アイルランド系移民の家庭に生まれた私自身も、祖母の世代が創設したカトリックの教会付属学校に通っており、児童もアイルランド系がほとんどでした。

大きなカルチャーショックを経験したのは、サンフ

ランシスコのローウェル市立高校に進学した時です。日系・中国系アメリカ人の生徒が多数を占める中で過ごし、文化の違いを目の当たりにしました。遊び方も、笑いのツボも、自分が慣れているものと全く違いましたから。でも、そこで日本や中国に興味がわきました。大学でも日本美術史の講義を受講

性の多様性が尊重される社会に向けて 一人ひとり「つぶて」の言葉を持つとう

してみたら、すごくおもしろくて。大学院生の時に日本へ留学しました。以来、日本で暮らしてもう35年になります。

日本社会は多様な性をどう受けとめてきたでしょうか。

私が来日した1980



年代初頭は、LGBTの人がカミングアウトすると、社会からそれとなく排除されたり、活躍の機会を奪われたりしてしまい、安心して自分のセクシュアリティを公言できない鬱憤気でした。その頃と比べると、人々の意識や社会の流れには隔世の感を覚えます。英語で“live your truth”（自分の真実を生きる）という表現があります（日本の若者にもそういう考え方が広がっていると感じます。メディアでLGBTの実態を知る機会も格段に増えました。

一方で、今多くのLGBTの人が苦しんでいま

す。当事者の年齢や社会的立場によって困りごとは多岐にわたりますが、「就職面接を断られた」、「パートナーの医療措置判断を決める場に参加できなかった」などの声が多数あがっています。生活や人生を支える「制度」が変わらなければ、機会均等や人間の尊厳に関わる重要な場面でLGBTの人が排除されてしまうのです。私自身には長年連れ立った同性のパートナーがいますが、同性婚が認められていないために、慶弔見舞金制度や年金の配偶者手当等、本来受けられるべき制度から除外されてしま

ます。さらに、財産の相続等、心配ごとをあげると数え切れないほどです。

最近、LGBTに「寛容」な社会、という表現を目にしましたが、「寛容」とは辞書をひくと「他人の欠点を大目に見てやること」です。この時点で既に対等な議論になっていません。今後はこうした出発点から、みんなで考えていくべきではないでしょうか。

一人ひとりができることは何でしょうか。

大切なのは「わかるよ!」と「共感」するよりも、「それってどういうこと?」と問い、「知ること

です。「バイセクシュアルって何?」「同性カップルは子どもをどう育てるの?」など、知らないことを調べてみてください。また、ある調査によると、自分の周囲にはLGBTが「いない」と回答した人が7割となっています。ですが、実際には「いない」のではなく「いない」環境なのです。そうした事実も含めて、一人ひとりが学び、理解を深めることが、みんなで議論し社会を変えていくことにつながります。知識があれば、もし、LGBTがギャグにされているのを見かけた場合、つられて笑わないだけではなく、その場にいる人々がハツとするような問いを投げかけられるはずですよ。そんな「つぶて」の言葉を持つことが、誰もが自分らしく生きられる社会への一歩ではないでしょうか。

日本のジェンダーギャップを考える もっと女性の広がる未来へ

ジェンダー (gender)は社会によって作り上げられた男性像・女性像のことを言います。

私たちの何気ない行動や発言がジェンダー格差を招いているのかもしれません。

そこで、女性の立場の変遷を振り返りながら、今なお性別による固定的な役割分担の偏見につながっている要因と、今後私たち一人ひとりにできることを考えてみたいと思います。

ジェンダーギャップ指数とは？

世界経済フォーラムでは「グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート」を毎年発表し各国の指数からランキング化して国ごとにどのくらいの違いがあるのか、男女平等の実現までにどのくらいの差があるのかを表しています。(指数は1に近づくほど平等になり0に近づくほど格差が大きいと考えます。)

ジェンダーギャップの指数総合順位(2021)

アイスランド 1位(指数 0.892)

1位になったのは北欧の中でも北に位置する島国、アイスランド。昨年よりも0.016上昇しており着々と格差を埋めていくことに成功しています。



日本 120位(指数 0.656)

日本は156か国中120位。昨年よりも0.003上昇したものの順位は1しか上がりませんでした。G7の中で最下位となります。



各分野での日本の順位

政治 総合147位

大臣職の男女別割合 126位
議員数の男女別割合 140位

2021年4月1日現在衆議院での女性の割合は9.9%と低く、背景には政治は男性のものという固定観念や家事・育児との両立が難しいことなどが考えられます。

参考文献 発刊日2021年4月22日 東京新聞

経済 総合117位

労働力率 68位 賃金平等 83位 推定勤労所得 101位
管理職の就職率 139位 専門・技術的従事者 105位
経済協力開発機構によると世界平均では女性は家庭内(家事・育児)での労働が男性の1.7倍に対し、日本では5.5倍と非常に偏っていることも考えられます。

参考文献 発刊日2021年5月17日 日本経済新聞

教育(女性の学歴) 総合92位

識字率 1位 初等教育への入学率 1位
中等教育への入学率 129位
高等教育への入学率 110位

中学校・高校は世界基準である中等教育とひとくりにされているため、中学校が義務教育である日本は順位付けにズレが生まれています。また高等教育の入学率も同様に差が生まれました。

健康 総合65位

出生時の男女比の差 1位
男女の健康寿命の差 72位

日本は男女の別なく出産されています。長寿のイメージがある日本ですが、この寿命の差は男性より女性のほうが7年ほど長いので、プラスの差でもあります。



“女性差別の歴史”

本年2021年4月10日に女性参政権行使75周年を迎えました。
それまで女性は、法律で選挙への参加が認められていませんでした。
日本社会において女性たちは、どのように差別的な扱いを受けてきたのでしょうか？
その歴史を振り返ります。



原始・
古代・
中世・

女王・女帝

原始時代、日本各地におこった小さな国々は、王が治めていました。王には男性だけではなく、卑弥呼のように女性もいました。女王は呪術だけでなく、政治や軍事にも携わっていたと考えられています。推古・持統ら8代6名の女性が天皇になりました。江戸時代にも2名の女性が即位しました。

豆知識

穢れ(ケガレ)：平安時代(9世紀後半)に天皇や貴族の間に死や出血をとまなう月経、出産を穢れとする思想が広まりました。やがて仏教と結びつき女人禁制(女人結界)が設けられるようになります。こうした思想は、次第に職人業などからの女性排除につながっていきます。

「家父長制」の定着

男性だけが家督の相続者となりました。

儒教

江戸時代には、幕府が儒教を取り入れるようになり、「三従(父・夫・長男)の教え」という女性の隷属の思想が広まりました。

豆知識

七去：江戸時代の女性に心得として記された19条の中の一つ。

1.義父母に従わない 2.子どもがない 3.性的に乱れている 4.嫉む 5.家族に感染する疾患に罹る 6.おしゃべり 7.盗む この内どれかにあてはまったならば、夫に離婚されても仕方がないと説かれています。

公娼制度：江戸幕府の許可のもと、特定地域に遊郭が設けられ公娼制度が始まりました。

近世

近代

女性抑圧

明治時代は、日本史上最も女性が抑圧された時代です。江戸時代までは夫婦別姓でしたが、明治になり夫婦同姓と定められ、妻が夫の姓を名乗らなくてはならなくなりました。この他にも、女性に対するさまざまな制限や禁止事項が法律に盛り込まれました。1925年の普通選挙法で25歳以上の全ての男性に選挙権が与えられましたが、女性は選挙権を得られないままでした。

豆知識

近代において法律に盛り込まれた女性に対する制限や禁止事項

- 妻にのみ姦通罪適用(刑法)
- 女性に選挙権なし(衆議院議員選挙法)
- 女性の政治活動禁止(集会及政社法)
- 女性は弁護士になれない(弁護士法)

婦人解放運動

女性を抑圧する政策がとられる中、時代に抗い行動を起こす女性が現れ、明治・大正期には女性にとってよりよい社会を志すさまざまな活動団体や、女子のための学校が誕生しました。

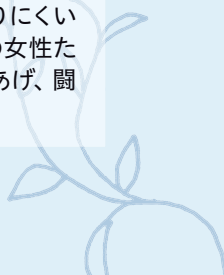
現代

婦人参政権獲得

第二次世界大戦後の1945年、GHQのマッカーサーが五大改革指令を発しました。その筆頭に掲げられていたのが、選挙権賦与による日本女性の解放でした。同年、改正衆議院議員選挙法が公布され、女性の参政権獲得が実現しました。翌年1946年の選挙では、39名の女性議員が誕生しました。

女性差別のゆくえ

かつて女性は医師になる資格試験を受けることができない時代がありました。現在は女性も医師になることができますが、2018年複数の大学が女性に対し一律減点するなどの医学部不正入試問題が発覚しました。以前のように法や制度で、女性を差別するのは難しくなりました。ですが、わかりにくい形で差別は存在しています。現在の、そしてこれからの女性たちも、先人の女性たちがしてきたように諦めずに声をあげ、闘い続けなければならないでしょう。



身近な体験談

知り合いに会い「ご主人様もお変わりないですか」と自然に出てしまった。

最近は「お連れ合い」「お連れ合い様」というようにしている。

自分の夫の呼び方も、何の抵抗もなく「主人」という人が多いと感じている。

私は、男女共同参画とか女性蔑視、女性差別ということあまり気にかけることなく過ごしてきた。

テレビなどを見ている時に「この人 女？男？」と言ってしまうことがよくあった。それは私が無意識のうちに、見かけで女性・男性を判断していたからだと思う。服装や髪型、メイクを女性のもの、男性のものという既成概念で見えていたからだろう。今は子どものおもちゃも“おんなの子用”“おとこの子用”では分けられていないと知りハツとした。

性差で分けられず個々の好みによる選択肢が増えたのはよいことだと思う。

所属する町会では、会長を決める時、誰も女性になるという考えがないように思う。

私は娘と息子を育てたが、女の子は結婚したら家事をしなくてはならないので、かわいそうだから今からやらなくてもと考え、娘にはあまり手伝いをさせなかった。逆に息子には、男の子だからといって家事をしなくてよいはずはないと、何かと家事を手伝わせた。

今二人とも家庭を持ったが、娘は家事が苦手で苦労しながら仕事と子育てを両立し、息子は料理も楽しそうに作り洗濯もする。かつての私も男女の役割に先入観を持っていたと反省しているが、息子が家事をすることに何の抵抗もない様子は、とてもよかったと思っている。

ランドセルの例のように、昔は男女で決まった色分けがあったように思う。

最近でも結婚相談所の女性から、お見合いの時は女性にピンクの服をすすめると聞いた。

知人との会話で、セクシャルハラスメントの話題が持ち上がった時、知人が「自分はセクハラ被害にあったことがない」という主旨の発言をした。しかし、話を聞いていると、仕事中に男性職員に体を触られたことがあるなどの「被害体験」があることが判った。

いまだに、女性自身がこのように性被害を被害として認識できずにいる現実がある。被害に遭った時は嫌な気持ちになったとしても、それを「騒ぎ立てるようなことではない」「これぐらい受け流さなければ」と矮小(わいしょう)化してしまっている人は少なくないように思う。

ちょっと待った!

その言葉

- 「女子大生」とは言うけれど「男子大生」とは言わない
- 「女医」という言葉はあっても「男医」って聞いたことがない
- 女の子だから、掃除・洗濯・食事の支度・料理が上手くて当たり前
- 女性は可愛い、女性はおしとやか
- 男性はカッコいい
- 男だから力が強く、泣くなんてみっともない

「○○らしくあれ」と言われて

窮屈な思いをしている人いませんか？

料理が上達したことを話したら、「いいお嫁さんになれるね!」と返された。

夫婦二人とも働いているのに当然のように、家事は妻がしている。

今後の課題

ジェンダー意識を高めるために

女 性だけを狙って体当たりをしていく男性たちがいる。そのような行為が近年になりSNSなどを通じ可視化され、逮捕されるケースも出た。黙ったままでは一歩も前進しない。これからも女性たちが自らの経験を語り、発信し続けることが重要だ。

ジ ェンダーの問題は、世界的に注目されている課題(SDGsの17の目標etc.)だが、その反面その認識が進んでいないことも確かだ。その背景にはジェンダーによる偏見や不平等が根深くあることが原因だと思われる。まず私たちはジェンダーのことをもっともっと知ることが大事だと思う。歴史や伝統を変えていくことは難しいが、多くのことを知り個々の多様性を認めることで性別だけでなく幅広い年齢層が調和できる社会の実現が可能だと思う。

日 頃から自分を取り巻く物事に、問題意識を持つことが大切だと思っている。現状を漫然と受け入れるのではなく、自分の考えを確認する姿勢が大事だと思う。学校でもジェンダーについてみんなで考えることが広がりつつあるようだ。子どものうちから、男女の格差なく活躍できる社会を目指し行動できる教育であってほしい。

な るべく「女子力」という言葉を使わないでいきたい。世間が描く女性の理想像にとらわれることなく、なりたい自分として暮らしていくべきだと思う。

近 年女性の権利が認められてきたが、明治時代の家父長制の名残がまだまだ日本の社会や家庭の中にあるように感じる。家の中でお互いの役割をどう分担したらよいのか。リーダーは決めても、支配する、される関係に陥らないように、いつでも意見が言い合える関係が大切だと思う。生きていくために家事は不可欠だが、結婚すれば無償で行われるものと思われているようだ。女性が社会進出を果たすためには、その部分を誰かが担わなければならない。家庭での分担はもちろんだが、家事・育児・介護を社会でどのように支えていけるかが、とても重要だと思った。



差別をなくすにはどうしたらよいだろうか？

おかしいと思うことは声を上げ続ける。
例:「#MeToo」「#KuToo」など声を上げることで変わったことがある



子どもの頃から「差別」に関する正しい教育をする。
大人の何気ない行動や言葉が社会の考え方を子どもたちに植え付けていることを自覚して改める。
例:「お父さんが料理をするのはすごいね」「男のくせに、女のくせに…」「男女混合名簿」

差別をなくすように法を整備する。
例:「選択制夫婦別姓」 女性が姓を変えるケースが96%
「クオータ制」の導入 政治にもっと女性の視点が入れば男尊女卑的な考え方も変わる



なりたいたい自分、
なりたいたい未来

すみだの 「お仕事探訪」

Vol.02



起業家、
建築コミュニケーター
株式会社グランドレベル
代表取締役

たなか もとこ
田中 元子さん
Tanaka Motoko

Profile

2016年、株式会社グランドレベル
設立。「喫茶ランドリー」を手がける。
グッドデザイン特別賞グッドフォー
カス[地域社会デザイン] 受賞賞。

人が笑顔になる1階づくりを

Q. 仕事について教えてください。

建物や空間の設計・デザイン、コミュニティづくり等を展開しています。社名の「グランドレベル」とは「地上」や「1階」のこと。1階の風景は目線の高さなので、自然と視界に入りますよね。そこに素敵な光景が広がっていれば、人は気分よく過ごせる。でも、都市のグランドレベルには高い壁やシャッターなど退屈な景色が広がっている…。1階づくりを通してそれを変えていくことで、人が笑顔になり、地域づくりにもつながると考えています。

Q. 「喫茶ランドリー」はどんな場所ですか？

「まちの家事室」付きの現代版喫茶店、というコンセプトの場所です。老若男女、誰でも来られるようにと、単なる喫茶店ではなく「洗濯ができ、縫い物ができ、本や洋服や雑貨が並び…」と、多様なコンテンツが広がる空間を目指しました。オープンから3年ですが、もはや10



墨田区千歳の「喫茶ランドリー」本店。開放的な外観の建物内には、喫茶スペースだけでなく、ランドリーや絵本のコーナーも。近所の子どももよく訪れるそうです。

年選手のように地域に馴染んでいますね。常連さんがアイデアを出して店内のディスプレイを作ることや、ワークショップを開くことも。ここに来ることで自分の発想力が引き出される、そんな場所になるとよいですね。

Q. 「まちをデザインする」仕事で、大切な視点は何でしょうか？

「まちづくり」というと、その地域の歴史や偉人、特産品などが注目されがちですが、私は「今、ここで暮らし、ここで生きる人」に向き合うことを出発点にしています。一見どこにでもいる人のようでも、話してみると、唯一無二の個性を持っていますから。そこで「このまちには、この人が自分らしさを表現できる場所があるかな？」と問う中で、アイデアが生まれ、かたちにつながっていくと思います。

お仕事コンシェルジュ

建築デザインが大好きだった田中さんは、独学で建築を学びながら、ライターとして多くの建築家取材されたそうです。「建築家を目指すから大学の建築学科」という進路選択ではなく、やりたいことを見つけて自分で学んでいく、そんな素敵な成長の仕方があると教えてくれました。



今日の一字



老若男女、誰もが自分らしく、ハッピーでありたいですね。
男女共同参画社会を目指し、みんながハッピーであるために、
あなたが日々の暮らしの中で感じた思いを「今日の一字」に例えて教えてください。



たあさん

突然!経験のない世の中に、
何処か落ち着きませんが、自
分らしくおだやかに、仲よくそ
して平和でありますように。



おかんさん

音読みは(オン)ですが、(おだ~やか)
と読んでほしいです。穏やかな心持ち
で穏やかな笑顔で平穏な日常生活に
一日も早く戻れるようお願いをこめて!



マリリンさん

健康が守られ何気ない日常
生活がやさしいものであり
ますように。



くろきちさん

心配になる「熱中症」の夏と
「熱狂」に包まれるオリッピ
クに向けた一字です。

夕方の錦糸公園に行ってきました!

錦糸町駅から歩いて5分、芝生が広がる錦糸公園で、夕暮れ前のひとときを
過ごしていたみなさんに、「一字」を紹介していただきました!

健康であること。これが
一番だつづくと思いま
す。元気であれば、何だっ
てできるはず。心も、体
も、そして社会も、
健やかであります
ますように。



せんちゃん
ママさん

世の中はいろんな音が重な
りあってきている。車の動
く音だつてそう。なんだか
んだ、その調和がいい...、そう
思って「音」に
しました。



そうたさん

恋によってダメージを受
けることもあるかもだけ
ど、きっと、自分が大人
になるための一歩にな
る(笑)。最近のぼくのト
レンドワードです!



ホッジーさん

なにごとも、上を目指して登っ
ていくことを大切にしたいです
ね。よい時もあれば悪い時
もある。だけど、どんな時
も常に、上を向いて登って
いけたら...。そんな気持
ちでありたいな、
と思っています。



せんとさん

「今日の一字」を募集しています

【応募写真のテーマ】

手書きで紙に書いた、「今日の一字」の写真
(1年以内に撮影したもの)
※墨田区在住、在勤、在学の方。
※罫線のない、無地の紙にお書きください。
※スマホ等で撮影した写真も可。

【応募方法】

作品の応募は電子投稿(Eメール)のみとします。以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。
1) 応募者(撮影者)の名前(フルネーム、本名)
2) ペンネーム(掲載する際に使用)
※記載の無い場合は本名を掲載します。
3) 一字字にのせた思いやエピソード、コメント等(50文字以内)
4) 連絡先(住所、電話番号)

【応募について】

- メールの件名を、必ず「すずかけ漢字投稿」としてください。
- 写真データは2メガバイト以内のJPEG形式をお願いいたします。
- お一人様何枚でも応募可能です。
- 応募1回につき添付する画像は1枚とします。
- 郵送による投稿の受付は行っておりません。
- 随時募集しています!

【応募先メールアドレス】

suzukake@city.sumida.lg.jp

【注意事項】

個人情報の取り扱いなど、詳細は右記QRコードより
区ホームページ「今日の一字」募集ページをご覧ください。

その他詳細は
以下のページを
ご覧ください



すみだ女性センター

女性のためのカウンセリング&DV相談の 相談日時を拡充しました

自分自身の生き方、夫・子どもや家族との関係、夫・恋人(元夫、元恋人も含む)からのあらゆる暴力、性被害、セクハラなど…。

カウンセラーがお聞きして、気持ちの整理や解決の糸口を探すお手伝いをします。

ひとりで悩まずにどうぞお話しください。秘密厳守、相談料は無料です。



網掛け部分が
拡充したところです

対象

女性限定

原則 区内在住・在勤・在学

相談日時

曜日(祝日・年末年始を除く)

時間

月曜日

火曜日

水曜日(第2水曜日を除く)

金曜日

第2土曜日

第4土曜日

第2木曜日

午前10時～
午後4時

午後3時～午後8時

まずは予約のお電話を



03-5608-1771

予約受付時間 月曜日から金曜日まで
(祝日・年末年始は除く)
午前8時30分から午後5時まで

その他の相談窓口(受付時間等が変更になっている場合があるので、お問い合わせください)

相談内容	相談窓口	電話番号	受付時間
女性対象	東京ウィメンズプラザ	03-5467-2455	午前9時から午後9時まで (年末年始を除く)※面接相談は予約制
	東京都女性相談センター	03-5261-3110	月曜日～金曜日 午前9時から午後8時まで ※夜間・休日は03-5261-3911へ
	女性の人権ホットライン	0570-070-810	平日午前8時30分から午後5時15分まで
DV	内閣府 DV相談+(プラス)	0120-279-889	24時間受付
	DV相談ナビ	#8008	最寄りの配偶者暴力相談支援センターにつながります。相談日時は窓口により異なります。
生活困窮	墨田区生活福祉課相談係	03-5608-6154	午前8時30分から午後5時まで (土・日・祝日を除く)

新役員が改選されました。任期は2年です。

運営委員

- 委員長 西澤 直子
- 副委員長 内田 淳
- 委員 武市 海里
- 北原 絢子
- 志波 洋子
- 杉山 敦志
- 宮腰 義仁
- 川嶋 久美子
(すずかけ編集委員長)
- 高橋 美佐子
(すずかけひろば委員長)
- 吹野 有美
(すずかけ講座委員長)
- 坂根 慶子
(情報資料委員長)

すずかけ編集委員

- 委員長 川嶋 久美子
- 委員 木ノ内 真知子
- 五井 秀子
- 高林 マリ子
- 三岳 由実
- 横山 恵美

すずかけ講座委員

- 委員長 吹野 有美
- 委員 石井 充子
- 高橋 円
- 伴野 温子
- 星野 京子
- 眞能 貴代

すずかけひろば委員

- 委員長 高橋 美佐子
- 委員 足立 起佐子
- 大石 あつ子
- 大関 光子
- 柴田 薫
- 杉山 京子
- 竹内 さえ子
- 田中 直子
- 辻 みやこ
- 星 眞弓
- 横山 たか子

情報資料委員

- 委員長 坂根 慶子
- 委員 石井 敏子
- 伊東 千鶴
- 奥山 糸子
- 田中 尚子
- 二村 法子

墨田区男女共同参画推進拠点施設 すみだ女性センター～すずかけ～

◆開館時間◆

[月曜日～土曜日]
午前9時～午後9時
[日曜日・祝日]
午前9時～午後5時

◆アクセス◆

〒131-0045
東京都墨田区押上二丁目12番7-111号
TEL:03-5608-1771
FAX:03-5608-1770

電車の場合

京成押上線・都営浅草線・
東京メトロ半蔵門線
「押上駅」下車A3出口徒歩5分
東武スカイツリーライン
「とうきょうスカイツリー駅」下車
徒歩10分

バスの場合

都バス(錦40)
南千住東口駅～錦糸町駅
「向島三丁目」バス停前徒歩1分
墨田区内循環バス(北西部ルート)
「女性センター」バス停前下車
徒歩1分



編集委員からひとこと

日本では「男性はこうあるべき」「女性だから」という固定観念を持つ人が多く、男女格差が大きい国の一つに数えられています。

しかし、これまで見過ごされてきた女性蔑視発言を看過しない雰囲気や格差解消のために、環境を整えていこうとする動きも少しずつ見られるようになってきました。

無意識に持つ潜在的な古い価値観や外見至上主義に気を配りながら、子どもからお年寄りまで誰もがジェンダーを越えて、ありのままの自分で生きられる社会になるように、一人ひとりの意識と行動の変化が今、求められていると思います。

(高林)

すずかけ編集委員会「特集」P4～P7、「こんにちはすみださん」P12担当
川嶋、木ノ内、五井、高林、三岳、横山(五十音順)

多田井利房

さん

スミダS.G.E.P.
戦後75年を記録する会会長

たたたいとしふさ

薄れゆく戦争の記憶を

未来へつなぐ



墨田区で生まれ過ごしてきた多田井さん、サラリーマン生活を終え、何か月か経ったある日「このままではいけない。地域を、墨田

空襲体験者17名のインタビュー映像を制作しました。「東京大空襲とすみだ」(2016年)です。

になる「戦争の記憶の一片(かけら)を集めて」を完成させました。東京大空襲だけでなく、戦中戦後の苦しい生活や胸に秘めた想いを16名が語っています。「旧満洲から帰ってこられた方のお話。日本からの物質が届かない。食べ物がない。生活がどれほど大変だったかを涙ながらに話される。辛かったんでしよう。ですが、満洲のことを記録に残せたことはよかった」。

「昨年のコロナ禍と猛暑の中、語り手を探し、話を集めるのは大変な苦労だったが、人と人のつながりで何とか完成することができました。是非見て頂きたいです」。

「区報で知ったガバナンスリーダー養成講座※に参加します。「地域がどうなっているか教えていただきありがたかった。視野が広がりました」。

「自分自身が空襲の場に居るような気がしました」と当時の心持ちを思い出されていました。

「ご本人が台本なしで喋ることのリアルさ。最初で最後のお話です」と言われるのはやはり、ご自身の体験を残しておかなければと思われたからでしょう」と思いを寄せられていました。

多田井さんは、「三年前、学校教育のカリキュラムに道徳が加わったことで、生徒たちにこの作品を見てもらう機会が増えました。平和と命の大切さ、尊さ、思いやりなどが子どもたちに伝わっていけばよいと思います」と願いを込めて話されました。

講座が終了する頃、何か残そうとテーマを考えていた時、戦後70年ということが頭に浮かび、何が起こっていたのかを知りたいと思ったそうです。

特に印象に残っているお話では「人が裸でゴロゴロしている状態。想像つかないですよね。窒息したこともそうでしょうが、衣服が燃えて、焼夷弾は油脂なんです。はたいて消そうとしても消えない。そんなことは聞いてみないとわからないことの一つです」。

3月10日、墨田区平和記念の日にすみだリバーサイドホールで上映され、予想を上回る方々が訪れました。

戦争はダメ、平和は大切と言葉で伝えるだけではなく、実際に起きた史実を教えることで強く心に残る、そのような作品を一区民が制作し記録として残した功績は大きいと思います。

1945年3月10日東京大空襲が下町を炎の嵐に包んだ時、多田井さんは1歳にもなっていないかったのです。

講座で知り合った方や多くの協力を得て、東京大

5年後の今年、第二作目

(川嶋)

多くの協力を得て、東京大

5年後の今年、第二作目

を上回る方々が訪れました。

(川嶋)

発行 2021(令和3)年8月 すみだ女性センター(墨田区総務部人権和・男女共同参画課)

〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7-111号 Tel:03-5608-1771 Fax:03-5608-1770

編集協力:株式会社ソヤパノソナーナショナル総合研究所

※本誌は区ホームページでもご覧いただけます。

すずかけ
バックナンバー

